

封印ファイル

封筒C

このファイルは読まずに印刷してください。印刷したページを「C」と書いた封筒に入れ、封をします。

次のページの質問への答えがチームでまとまるまで開けないでください。



封筒C

サイラス・レンを殺したのは誰か、動機は何か、それを
証明する物的証拠は何か？

ここで切り取って封をしてください。チームの答えがまとまるまで開けないでください。

エヴェレット・ラスク

動機。ラスクの南岸開発計画は、すべてターン岬の土地にかかっていた。サイラスは売却を拒んだが、未亡人となるノラなら邪魔はしない。遺産の整理がついた1980年6月、ノラは岬をターン・ポイント・ホールディングスに85,000ドルで売却した（不動産登記簿）。

方法。ラスクは、これ見よがしに17:30のフェリーで島を離れ、ハーバー・インにチェックインした。21:30、夜勤のフロント係に散歩に行くと言げ、「E・ローソン」の名で3号ボートを借り――その際、自分の事務所の電話番号(617) 555-0148を書いている――干潮の時間に岬へ渡った。サイラスはラスクを塔に入れた。3番目の踊り場で、ラスクは灯器の巻き上げ用クランクでサイラスを2度殴り、そのまま転落させた。

証拠。

- ボート貸出台帳の電話番号は、ラスクの名刺の番号と同じである。
- 夜勤のフロント係は、彼が21:30に出かけ、2時過ぎに膝まで濡れて戻るのを見ている。一晩中部屋にいたという供述は嘘である。宿泊者名簿によれば、4号室の客はエヴェレット・ラスクだった。
- 3番目の踊り場にあったJ・プレスの真鍮ボタンは、ベイビュー・クリーニングの預かり票と一致する。ラスクは月曜日に、紺のブレザーのJ・プレスのボタンを1個交換させ、ズボンの塩じみを落とさせている。
- 船着き場から上へ、サイズ11の濡れた革底の足跡が続いていた。サイラスが履いていたのはサイズ9のゴム長靴である。
- クランクの直径2.5cmの円形の突起は、2か所の直径2.5cmの骨折と一致する。

ほかの人物。トム・レンは19:05から01:12まで酒場〈アンカー〉にいた。18分で海を渡ることはできない。デール・ブロディのサリーB号は、その週ずっと造船所に陸揚げされていた。ノラ・レンとイングリッド・ソレンセンは島にいたが、どちらも船で来てはおらず、男性用サイズ11の靴も履かない。そしてイングリッドは沿岸警備隊の自動化検査官で、だからこそ灯台を観察していたのである。生命保険とロブスター籠をめぐる揉め事は、どちらも偽の手がかりだ。ラスクの手紙にはノラが「邪魔はしない」と書かれているが、ノラ自身の供述では、決めるのはサイラスだとラスクに告げている。ノラを階段や計画に結びつけるものは何もない。

事件解決

1979年、エヴェレット・ラスクが起訴されることはなかった。ターン・ポイント・ホールディングスは1981年、ターン島の南岸に夏用コテージを11棟建てた。同じ年、灯台は自動化された。

未解決事件再調査班がファイルを再び開いたとき、ベイビュー・クリーニングの預かり票は店の古い伝票の箱にまだ残っていた。そしてマリーナの台帳には、沿岸の誰も聞いたことのない名前の横に、ボストンの電話番号が記されたままだった。

あなたのファイルは閉じられた。サイラス・レンのファイルも、ようやく閉じられる。

捜査員

解決日
